

公立大学法人札幌市立大学 第二期経営戦略

I 第二期経営戦略について

第二期経営戦略は、第二期中期計画（平成 24 年度から平成 29 年度の 6 年間）の着実な実行と目標の達成を図るために、中期計画 45 項目の重点構造化（文脈化）を図るとともに、社会の急激な変化や大学改革の動きに柔軟に対応するために、大学経営の基本方針と推進戦略を明示するものである。尚、経営戦略の策定については、第二期中期計画の第 4.1. (1) に「平成 24 年度に第 2 期中期目標期間中の法人全体の経営戦略を理事長が策定する」とされている。

II 経営戦略の基本方針

新設大学としての基盤づくりが求められた第一期に続き、第二期経営戦略では、社会から要請される大学の本質機能の強化に取り組みながら、新たな発展の道筋を明らかにする。

第二期経営戦略のビジョンとして、「教職員や学生をはじめ、大学に関わるさまざまな支援者の参画による、＜未来社会をリードする魅力的な公立大学としてのプレゼンス（将来にわたっての「あるべき姿」）の確立＞」を掲げる。

これを実現するための基本方針として、[4つの柱]を示す。

1 「地域創成の核となる大学づくり（COC (Center of Community)）」の積極的な推進

大学を学外に開き、地域創成の核となる大学づくりを推進する。札幌市や北海道において顕在化する地域課題（少子高齢化・過疎化、コミュニティの弱体化、地域経済の衰退等）を大学の重要な取組テーマととらえ、地域社会の創成に取り組む。その活動を通して他大学や外部諸機関、市民団体等との連携体制の強化を図りながら、地域コンソーシアムの形成とネットワーク化を推進する。

2 人の生活と社会の持続的充実・発展に寄与する教育・研究・社会貢献活動の三位一体による推進

建学の理念（「人間重視を根幹とする」、「地域社会への貢献」）を重んじながら、大学院を有する大学として、未来を拓く先進的な研究に一層注力する。

教育、研究、社会貢献を三位一体で推進し、その質・量をスパイラル的にレベルアップできるしくみを構築する。

3 デザインと看護の有機的連携と、連携成果をいかした新たな科学の基盤づくり

デザインと看護の 2 学究ユニットを柱とする本学の個性と強みを最大限にいかす運営をおこなうとともに、D×N 連携（デザインと看護の両ユニットの連携）による教育、研究、社会貢献活動を活発に推進し、新たな科学（仮称：ウェルネス・サイエンス）の基盤づくりとその拠点化を目指す。

4 大学の社会的プレゼンスを高めるための施策の推進

SCU らしさ（強み、弱み）を的確に掴みながら、自己分析力を強化し、発信力を高めるとともに、大学のガバナンスを強化し社会から支持される大学を目指す。

Ⅲ 経営戦略の推進体制

1 トップマネジメントを推進する学内体制の整備

大学ガバナンスの強化のため、理事長・学長をトップとする「経営会議」を設置する。

2 大学改革実行プランとの整合性の検証

第二期中期計画の着実な推進と、文部科学省が平成 24 年 6 月に発表した「大学改革実行プラン ～社会の変革のエンジンとなる大学づくり～」に示された大学改革実行期間とを整合させるため、本経営戦略については、3 年目にあたる平成 26 年度末に中間的な検証と見直しをおこなう。

具体的には、平成 24 年度から平成 26 年度までを「P→D 期」と位置づけ、経営戦略課題の実行プログラムの策定とその実践に重点的に取り組む。さらに平成 27 年度から平成 29 年度までを「C→A 期」と位置づけ、取組の評価・検証及び改善案の立案と実践をおこなう。

3 機動的な活動に向けた職務分掌と責任体制の明確化

経営戦略を、大きく 3 つの戦略（「大学全体のガバナンスを強化する戦略」、「大学を学外に開く戦略」、「学内体制を充実・強化する戦略」）に大別し、それぞれのトップリーダーのもとに会議体を設け、強力で活動を推進する。

(1) 「大学全体のガバナンスを強化する戦略」は、理事長・学長の担当とし、副学長（学内理事）が補佐する。

(2) 「大学を学外に開く戦略」は、理事長・学長の担当とする。

(3) 「学内体制を充実・強化する戦略」は、副学長の担当とする。

Ⅳ 戦略推進課題

第二期経営戦略と第二期中期計画との整合化を図るため、経営戦略の推進課題を以下のように整理する。その着実な実行を図るため、戦略推進課題を明らかにする。

1 「大学全体のガバナンス強化」（理事長・学長、副学長（学内理事）補佐）

(1) 大学のプレゼンスを高める戦略の立案と推進

ア 「広報戦略」の立案と推進

- ・ SCU らしさで大学の自己分析力を生かした発信力の強化
- ・ 大学支援者への情報提供と情報共有
- ・ 大学情報を収集・蓄積する「大学アーカイブス」のシステム整備

(2) 大学の業務体質強化

ア コンプライアンスポリシーによる適正な大学運営

- ・ 業務分析に基づく事務の効率化と適正なライフワークバランスへの配慮
- ・ 財源の安定的確保と戦略的運用
- ・ 適正な人事及び評価による教職員配置

イ 学究コミュニティの質の向上

- ・ 情報共有のしくみづくり
- ・ 留学生を含む学生支援の強化
- ・ キャンパスハラスメントやメンタルケアへの取り組みの強化
- ・ 安全と健康を高めエコを推進する環境の整備と体制づくり
- ・ 施設・設備、備品・図書等の計画的維持管理と保全整備

- ウ 職員の資質向上を図るしくみづくり
 - ・ 目指す職員像や求められる能力・意欲の明確化
 - ・ 職位や目的に応じた計画的・体系的な SD の推進
 - ・ 教職員協働による大学運営体制の確立
 - ・ 自己点検・評価や法人評価、認証評価の結果公表とガバナンスへの反映

2 「大学を学外に開く戦略」の立案と推進（理事長・学長担当）

- (1) 地域創成の核となる大学づくり＝「COC 戦略」
 - ・ 地域産学官連携推進のための地域連携研究センターの機能強化とサテライトキャンパスの活用
 - ・ 大学間、及び外部諸機関・団体等との連携の強化、地域コンソーシアムの形成とネットワーク化の推進
 - ・ 新 GP（COC）の獲得と推進
 - ・ 大型科研費等、多様な外部資金の獲得
 - ・ 地域に寄与する各種専門教育の提供や生涯学習プログラムの開発・提供による積極的な社会貢献
 - ・ 小規模な公立大学の特質をいかした「国際化戦略」の推進
 - ・ 顕在化する地域課題の解決に向けた研究活動の推進
 - ・ 小規模な公立大学の特質をいかした生活の質の向上に寄与する多様な社会貢献活動の実践
 - ・ 情報拠点としての図書館の有効活用

3 「学内体制を充実・強化する戦略」（副学長担当）

- (1) 教育・研究・社会貢献を三位一体で推進し、その質・量をスパイラル的にレベルアップできるしくみの構築
- (2) 教育の充実
 - ア 教育理念（育成すべき人材像）の明文化
 - ・ 学部、研究科ごとの明確な教育理念の構築
 - イ 教育課程の体系化
 - ・ 「4つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ、キャリアパス）」の整備
 - ・ ナンバリング等によるシラバスの文脈化と履修モデルの整備
 - ・ ルーブリック等を取り入れた多面的な学力評価システムの整備と、4つのポリシーとの相関性の検証
 - ・ GP（産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業）への取り組み
- ウ 教育方法の改善と授業の魅力向上
 - ・ FD の体系的推進と教員評価への反映
 - ・ グローバル化に対応する教育の推進
 - ・ 社会意識を醸成する共通科目の改革
 - ・ 「プレゼンテーション、クロスオーバー型ラーニング（ディベート、グループワーク等）、ソリューション（PBL）」等を取り入れたアクティブラーニングの推進
 - ・ 外国語科目等による、論理的思考力やコミュニケーション力の育成
- エ D×N 教育の改善と成果の可視化
- オ 学生支援プログラムの整備

- (3) 研究の充実
 - ・プロジェクトの総合的かつ計画的な推進
 - ・D×N連携を核とする新たな科学（仮称：ウェルネス・サイエンス）の基盤づくり
 - ・外部資金による大型プロジェクトの獲得と推進
 - ・大学院を有する大学として、未来を拓く先進的な研究の拡充
- (4) 社会貢献活動の充実
 - ・COC戦略とリンクした多角的な活動の継続的实践
 - ・D×N連携を核とする社会貢献活動による多様な成果の創出
- (5) キャンパスの環境整備
 - ・デザインと看護の両ユニットの特質や資産をいかしたキャンパスの魅力向上
 - ・学術情報の集積・提供機能の充実

V 実行プログラム

中期計画をベースに、本経営戦略を盛り込んだ「実行プログラム」を別途策定し、計画的な推進を図る。